



2020年12月8日

マツダ、「SKYACTIV-X」の燃焼技術が日本燃焼学会「技術賞」を受賞

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、日本の燃焼研究で最も権威のある日本燃焼学会より、新世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」の火花点火制御圧縮着火燃焼の開発において、2020(令和2)年度日本燃焼学会「技術賞」を受賞しました。同賞は、燃焼応用技術の研究・開発に顕著な功績を残した個人またはグループに対して贈呈されます。

【受賞概要】

受賞対象：「火花点火制御圧縮着火を採用した新型エンジン SKYACTIV-X の開発」

受賞者：	漆原 友則(うるしはら ともり)	マツダ株式会社
	西田 正美(にしだ まさみ)	マツダ株式会社
	河野 通治(かわの みちはる)	マツダ株式会社
	井上 淳(いのうえ あつし)	マツダ株式会社
	志々目 宏二(ししめ こうじ)	マツダ株式会社
	末岡 賢也(すえおか まさなり)	マツダ株式会社
	松本 浩太(まつもと こうた)	マツダ株式会社
	丸山 慶士(まるやま けいじ)	マツダ株式会社



新世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」

マツダの新世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」は、ドライバーの意のままにシャープなレスポンスやトルクフルで爽快な加速感を、優れた燃費・環境性能で楽しめるパワートレインとして、「MAZDA3」「MAZDA CX-30」に搭載しています。

今回の受賞では、乗用車用量産ガソリンエンジンとして世界で初めて¹ 高圧縮比化と希薄／希釈燃焼による火花点火制御圧縮着火燃焼 (SPCCI²) 方式のエンジンを開発し、エンジンの熱効率改善を通じて CO₂ 排出低減に貢献していることが高く評価されました。高効率を実現する圧縮着火燃焼を用いた自動車用ガソリンエンジンは、これまでも盛んに研究が行われてきましたが、高圧縮比化技術の必要性や燃焼タイミング制御の難しさから実用化が困難でした。マツダは、ガソリンエンジン「SKYACTIV-G」で培った高圧縮比化技術と、スパークプラグを燃やすためではなく、燃焼室内の圧力変化に活用する新たな発想での燃焼制御を開発す

ることで、圧縮着火ガソリンエンジンの実用化に初めて成功しました。

マツダは、今後もクルマ本来の魅力である「走る喜び」によって、美しい「地球」と心豊かな「人」・「社会」を実現し、人の心を元気にすることにより、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

以上

*1 マツダ調べ

*2 SPCCI はSpark Controlled Compression Ignition:火花点火制御圧縮着火の略

【ご参考】

■日本燃焼学会サイト

<http://www.combustionsociety.jp/>